

登米懐古館

1. 建物の経過

昭和36年(1961年)10月 落成、開館。

懐古館は昔を懐かしむという意味の施設です。

登米伊達一門のお城の三の丸があったところに建てられ、本町の名誉町民で東北開発(株)総裁、日本鋼管(株)社長、明治大学理事長等を歴任した渡辺政人氏(わたなべ・まさんど)より古希の祝いの記念事業として、同氏の所蔵していると登米伊達氏に縁のある文化財を保管収蔵するための施設も合わせて寄附を受けた。

博物館類似施設。

昭和63年(1988年)～

展示内容の充実を図るため増改築工事。

平成 2年(1990年)

新装開館。

2. 常設展示の内容

- ・伊達政宗公愛用の鎧、刀袋、書簡。
- ・横山大観作「天長地久之図」(掛軸)。
- ・池 大雅作「竹之図」など。

3. みどころ

- ・伊達一門二万一千石の城下町を偲ばせる絵画、彫刻品、書跡などが展示してあります。
- ・登米懐古館東南隅石垣の上に「双竜の松」(そうりゅうのまつ)が横たわっています。大小の枝が相錯して三方に散垂し巨大な美傘状をなしています。樹齢300年以上と推測され、城址のシンボルになっています。

4. 裏情報(施設の出来事等)

- ・年3回ほど展示換えを行っています。四季に分けた展示品をご覧ください。
- ・平成16年(2004年)は、登米伊達氏開府400年の記念の年にあたります。白石宗直公(しろいし・むねなお)は南部領との境界で起こった和賀の乱の責めを負い、慶長9年(1604年)登米に移封され、のち伊達の姓を賜り一門に列し登米伊達家の祖となりました。

5. 体験

- ・伊達藩時代登米絵図(文久時代)を手に、登米町内の武家屋敷などを散策してみたいかがですか。

6. その他(販売グッズ等)

- ・伊達政宗人形、家紋箸など。